

行事予定表	
1	水
2	木
3	金
4	土
5	日
6	月 体操
7	火 ビヨビヨ
8	水 交通安全教室
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月 スポーツの日
14	火
15	水 お弁当とウデー/運動会予行
16	木 カレーの日④
17	金
18	土
19	日
20	月 体操
21	火 運動会予行予備日
22	水
23	木
24	金
25	土 運動会※土曜保育なし
26	日
27	月 体操
28	火 避難訓練
29	水
30	木 誕生会
31	金

先日、ぞうグループ（5歳児）の筑波登山遠足がありました。道中のバスの中で担任の先生が子どもたちにインタビュ。「筑波山で楽しみなことは、弁慶七戻りです。」「みんなとおにぎりを食べるのが楽しみです。」「嬉しそうに話してしました。そんな中、私にもインタビュの順番が回ってきて、「筑波山でやってみよう」とは友だちを作ることです。」「と言うと子どもたちは声を揃えて「え〜！」。すかさず私は、「他の山登りをしている人たちに挨拶をしてお友だちになろう〜！」と提案。いざ登山が始まると、開始5分で「もうだめだ〜」と弱音を吐く子が出てきました。そんな中にも「こんにちば！頑張ってください！」「大きな岩があるから気をつけてください！」「一般の方に挨拶をして元気に登る子の姿も見られました。すると「小さいのにすごいね！」、と言われ弱音を吐いていた子もいつの間にか元気を取り戻して歩き始めます。（お互いに挨拶をして励まし合うことで目には見えない力が湧いてきたのでしようね。）その後も、すれ違う人々に挨拶、そして無事みんな女体山まで登頂し、女体山からの景色を堪能した子どもたちの表情は達成感で満ち溢れていました。一人では決して成し遂げられなかったことと思います。登った甲斐があったと思った瞬間でした。

みんなで食べたおにぎり、みんなで乗ったケールカー。いつまでもここに残る保育園での思い出となることも、ふたばっことして根っこがこれからたくましく大地に根をはれますように・・・
（私は帰宅後、腰に根っこでなく湿布をはりました・・・）

園長

沖本 恭大

●ピヨピヨひろば（7日）

●交通安全教室（8日）
今回は4、5歳児での参加になります。ご家庭でもお子さんが学んだことを聞いてみてくださいね。

●カレーの日（16日）

●おべんとうデー（15日）
10月も暑い時期が続きますので、お弁当の蓋の上に保冷剤を乗せてご持参ください。乳製品、要冷蔵のものは入れないでください。

●運動会（25日）（全園児）

・牛久運動公園のメインアリーナにて行います。詳細はまた手紙を配信いたしますので、よくご確認ください。



●避難訓練（28日）

・火事になった時の練習を毎月行っていますが、日々避難がスムーズになってきています。今月も万が一に備え取り組んでいきたいと思っております。

●誕生会（30日）

・1年に1回誕生会にとって大切な日を「おめでとう！」と心からお祝いします。
※誕生児の保護者の方は誕生会の見学が可能ですので、ご希望の方は、お知らせ下さい。

お知らせ

・内科検診、歯科検診の日程が決まりました。
内科検診 11月4日（火） 15:00〜
歯科検診 12月4日（木） 10:00〜

「根拠なき自信」プラス思考

県の監査があった。本当にしつこく、細かい監査だった。本園は真冬でもお部屋は開けっぱなしである。それなのに、換気の検査がどうのと・・・ウンザリしている、窓のガラス越しに子ども達が私を外に出てくるのをじっと見つめて待っていた。目が合うと、時折、「マダー」

「遊ぼうよ」と呼び掛ける。私が、「まだ、あっちに行つて」と言う。・・・を繰り返した。すると、監査人も困った様子で「理事長先生、園長先生がいれば結構ですよ。」と私を開放してくれた。子ども達が私を囲んで「あの人達、早く帰ればよかったのに」「遊ぼう！」「喜んでくれた。子ども達の声は監査人にも届いていたと思う。監査人が帰った午後、R子園長に、「細かくてしつこかったな」というと、R子園長は「細かく見てもらえて、かえって書類が整理できて良かったです。」と答えた。うんざりする私とは反対に、プラスにとらえていた。反省しきり。▼昨年の筑波登山の日、筑波山に近づくにつれ、山頂付近には厚い雲がかかっているのがはつきり見え始めた。普通、大人は「残念、今日はついでない」とガツカリする。実際に、筑波から帰ったその日「こんな日によく行ったわねー。私だったら絶対行かない。」と言われた。しかし、子ども達は、雲がかかった山頂を見上げて

「やったー。雲がかかっている。早く登って雲を食べよう。」「ビニール袋に詰めしておみやげにしよう」と意気おこした。頂上付近に近づく濃霧の中にたたくみ、「アレ、雲がない。どうしたんだろう」と雲を探した。「遠くから見ると雲なんだが、この雨のような濃い霧が雲なんだよ。」「へー、この霧のモヤモヤが雲なんだ。お腹の中に思い切り吸い込んでおおう。」と大きく深呼吸した。「雲の中にいるなんて、こんな経験なかなかできないよ。」と思った。お弁当を食べ終える頃に濃霧が小雨になった。「ほら雲が厚くなると雨になるんだ。」とまた経験。急いでお弁当を食べ、ケールカーで神社まで降り、お参りをしていると晴間が見えたので、仁王門のところまでシートを広げ、残っていたお弁当・おやつを再開。二回もお弁当、おやつが食べられるなんてラッキーと喜んでいたら。ふたばっ子はみんなプラス思考。

▼プラス思考の方が物事を前向きに楽天的、積極的にとらえられるようになる。人生を豊かにする。プラス思考は幼児期に「根拠なき自信」をつけることでできる。3才児は誰もが自分が一番早いと思っている。競争してゴールすると、遅れた子もみんな指を立て「一番！一番」と叫ぶ。これがいいのだ。私は遅れてゴールして「みんな早いね！」と言うと、何度も繰り返し走らされ疲れるが、子どもはどんどんフォームもしつかりして本場に速くなる。そこから「自尊心」「自己肯定感」が育つ。「僕はできる。私はやれる。」という自己肯定感がないと意欲はわかないし、チャレンジ精神はできない。競わせて、早くから現実を突きつけ負のイメージを植え込んでしまうと、どうせやっちゃったってダメ・・・どうせ僕はダメなんだと思うことになる。君はデキル、やればなんとかなるを繰り返すと、失敗したって、いつかは必ずできるようになる。と前向きに物事をとらえるようになり、積極的になり、プラス思考を持つことになる。まずは、「根拠なき自信」を育てよう。（九月の続きは十一月にします）

理事長

浅田 精利